

11.  $T_3$  リアキットの使用経験

田辺恵三子 ○春名 桃江

(天理よろず相談所病院・臨床病理部)

稻田 満夫

(同・内分泌内科)

ダイナボット RI 研究所で作製された  $T_3$  の Radioimmunoassay 用 Kit を使用する機会を得たので、その使用経験について報告する。

本法は  $T_3$  と TBG との結合阻害剤として、ANS を用い、又 B と F の分離には Dextran coated charcoal を用いる一抗体法であった。

標準曲線の F/T(%) は  $T_3$ O 濃度でほぼ 30%,  $T_3$  800ng/100ml, でほぼ 70% で、400ng/100ml まで感度のよい標準曲線が得られた。バセドウ病患者血清を倍数希釈してその F/T(%) を標準曲線のそれと比較すると両者はほぼ平行して変動し、本法での測定値は内因性の  $T_3$  濃度をよく反映すると考えられた。次に  $T_3$ free 血清に  $T_3$  を加え、回収率試験を行ったが、平均回収率は  $84 \pm 9\%$  でほぼ良好であった。本法による測定値の再現性をみると、まづ二重測定値間に有意差はなかった。次に日差変動をみると、 $M \pm SD = 60 \pm 9$ ,  $113 \pm 19$ , および  $700 \pm 17$  で CV は各々 15.0%, 16.8%, 2.4% で変動はやや大きいと考えられた。

健康男女 14 人の平均  $T_3$  濃度は  $119 \pm 12$  ng/100 ml, であった。一方内分泌疾患を除外した入院患者 23 例のそれは  $88 \pm 23$  ng/100ml, であった。未治療甲状腺機能亢進症患者 24 例の血清中  $T_3$  濃度は  $479 \pm 174$  ng/100ml, 又未治療甲状腺機能低下症患者 14 例のそれは  $36 \pm 22$  ng/100ml, で、よく甲状腺機能を反映した。

$T_3$  濃度は  $T_4$  濃度とほぼ平行して変動したが、両者に解離のみられる場合があり、とくに  $T_3$  Thyrotoxicosis の診断に  $T_3$  測定は不可欠である。

12.  $^{99m}$ Tc 標識 Bleomycin による甲状腺腫瘍の診断

○森 徹 小鳥 輝男 坂本 力

鳥塚 売爾

(京大・放射線科)

浜本 研 藤田 透 高坂 唯子

(同・放射線部)

各種甲状腺疾患患者 131 例について  $^{99m}$ Tc 標識 Bleomycin 静注後のシンチグラフィーを行ってその腫瘍診断上の有用性を検討した。

検査方法は既報の如く、自家製  $^{99m}$ Tc-Bleomycin (BLM\*) 3~5 mCi 静注後 30~60 分の間に 4,000 ホールコリメーター装置ガンマカメラを用いてシンチフォトを作製した。

針生検又は手術で確認した甲状腺癌 53 例中乳頭状腺癌は 88% (29/33), 沖胞状腺癌は 94% (16/17) 髓様癌 1 例及び未分化癌 2 例は共に陽性で合わせて 48 例 (91%) に BLM\* の病巣部への集積を認めた。癌治療例では臨床的に残存の明らかなもの 7 例中 7 例、疑わしいもの 7 例中 5 例に陽性で、治癒状態のものは 10 例中 2 例のみに集積を認めた。良性疾患における成績は結節性甲状腺腫 30 例中 6 例 20% に、慢性甲状腺炎は 17 例中 4 例 24% に陽性であったが、バセドウ病の 2 例、単純性甲状腺腫 4 例は陰性であった。なおヨード有機化障害の 1 例に BLM\* のびまん性かつ高度の集積がみられた。

$^{67}$ Ga-citrate は甲状腺癌 25 例中 6 例 (24%) にのみ陽性で分化癌の成績が悪く、また慢性甲状腺炎は 8 例中 5 例に集積を示した。針生検と BLM\* の比較では甲状腺癌中針生検の診断率は 57% に留まったが、針生検で悪性所見を示した 2 例及び良性と判断された 2 例にのみ BLM\* は陰性であった。一方手術により確認された 9 例の良性結節例中 BLM\* は 1 例であった。

以上の成績から BLM\* によるシンチグラフィーは甲状腺癌診断上極めて有用と判断された。